県立志知高等学校の科目「日本の文化」について

生活文化
～遊びの文化の
継承を中心として～

キーワード

1　こころ深く
　　こころざし高く

2　地域との連携

1－(1)　こころ深く

日本人が大切にしてきたものについて考える

マナー　→　人への配慮
　　思いやり

配慮される側　→　配慮する側へ

小学生との交流を計画

交流学習に向けて

① 「着付け体験」

交流学習に向けて

② 「礼と動きの基礎」

交流学習に向けて

③ 「竹とんぼ」
　と「凧」製作

交流学習に向けて

③　「折り紙」講義

交流学習に向けて

③　「お手玉」～ななつ～

交流学習

1ー（2）　こころざし高く

〈次に繋がる学習を〉

・AO　自己推薦入試に活用

・進学先のテーマに

4月18日

「日本の食文化」授業風景

生徒の反応

1　生徒の感想文より

2　「レポート」より

・ 1年間のまとめとして

・ 各自が課題を設定して、
調査学習

2　地域との連携

①地域の産業

・　吹きもどし

2　地域との連携

①地域の産業

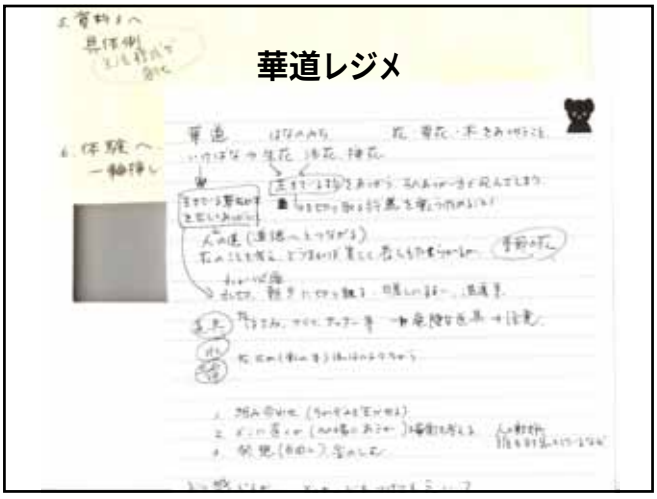
・　淡路瓦

2　地域との連携

・　地域の人材の活用

２３時間　のべ１３人の
特色化支援事業による講師の活用

華道



華道　（テーマ：命を大切にする）

授業後、飾られていた一輪挿し作品

- 校長室（2）
- 事務室（3）
- 職員室（2）
- 教室（3）
- 談話用スペース（1）
- トイレ（2）

選択男子生徒（17名）

書道　（年賀状）

日本の文化選択者の皆さんへ

手づくりの賀状をありがとうございました。
TVや新聞で　年賀状は贈り物ですというCMを
よく見ましたが　正にすてきな味わい深い贈り物でした。
お正月に賀状の交換をするというのも　日本の伝統文
化です。これからも手づくりの味を大切にした賀状
で優雅な文化を伝えていってほしいと思います。
常に次の世代に伝えていく努力をしないことには
古くからのものは消えてしまいます。
その意味で皆さんが日本の文化を選択したことは
頼もしいかぎりです。
そこできなことを習ったと思いますが　それぞれ入り口
から中をのぞいたらいの時間でしかなかったかと思い
ます。興味関心をより深めて　これからも日本文
化の担い手であって下さい。
日本人が日本文化を大切にしなくて　どこの国の人が
日本文化を守り伝えてくれるでしょうか。
国際化社会の中でも自国の文化を誇りとして　堂々と
日本人として生きていくことが求められています。
礼節を守った美しいまき方を目途してりかれること
を期待します。
一月八日
[illegible]

和菓子実習

「日本の文化」学習指導案

授業者　兵庫県立志知高等学校
教諭　　橋本　祐里

１．実施日時　　平成 19 年 10 月 25 日（木）　５校時　　13:15 ～ 14:05

２．授業教室　　柔道場

３．対象生徒　　３年生（選択者：17 名　　男子 13 名　女子 4 名）

４．授業協力者　南あわじ市立三原志知小学校１年生～４年生（２０名）

５．履修単位　　２単位

６．科目の目標
日本及び自らが住んでいる地域の文化的価値についての理解と表現を図り、世界の多様な文化を尊重することによって、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。

７．単元名
「生活文化」「地域文化」

８．単元の目標
「生活文化」：衣食住を含めた生活に密接に関わる文化を、調査や体験を通して学ぶことにより、生活文化の本質を理解する。
「地域文化」：自らが住んでいる地域の伝統芸能や伝統工芸等を、体験や地域教材を活用して学ぶことにより、地域文化の価値を伝統文化の継承と創造として関連付けて理解する。

９．単元の授業展開
１～４時間　　「着付け体験　　礼と動きの基礎」
　　外部講師　日本舞踊師範　小笠原伊佐子氏
夏季休業中　　自主学習　「お手玉やその他の遊びについて」
　　外部講師　地方史研究家　浜岡きみ子氏
５時間目　　「お手玉製作」　外部講師　家庭科講師　　森和子氏
６時間目　　「竹とんぼ製作」外部講師　淡路野外活動協議会理事　　桜井一郎氏
７時間目　　「凧製作」　　外部講師　淡路野外活動協議会理事　　桜井一郎氏
８時間目　　「折り紙製作」　外部講師　淡路ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙﾋﾟﾉｷｵの会　富岡純氏
放課後　　三原志知小学校との打ち合わせ
放課後　　補講　（竹とんぼ製作・凧製作・お手玉練習）
９時間目　　本時

10．本時の内容
地域の「遊びの文化」の伝承

11．本時の目標
①自らが住んでいる地域の文化に対する関心を高め、地域独自の文化を理解し、地域文化への誇りや愛着を深める。
②小学生に教えることによって、学習内容を再確認し、知識としての定着を図る。
③自らが学習した成果を、表現し、伝えることにより、地域文化の価値を理解し、それらを継承・発展させる態度を養う。

12．本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	評価の観点
導入 10分	(1)本時の内容を概観し、協力者を紹介する。 (2)礼について ①センスの意味 ②手の位置・形	(1)協力者に注目する。 (2)三原志知小学生に教えながら、礼の復習をする。 ①代表者は実演する。その他の生徒は小学生と一緒に、その礼に注目する。また、指名された生徒は、発問に答えることで、ポイントを確認しながら教える。 ②小学生に教えながら、小学生からの礼を受けることで、学習内容を伝承することを体験する。	[意欲・態度] 正しく美しい礼ができたか
展開 1 25分	(3)「お手玉」について ①中身の確認 ②お手玉の呼び方について ③淡路南部のお手玉「ななつ」について	(3)①指名されれば答える。 ②指名されれば答える。 ③小学生と一緒にお手玉の数を数える。 代表者が説明と実演をする。 小学生の体験を補助する。	[知識・理解] [知識・理解] [技能・表現] [意欲・態度]
展開 2 10分	(4)各グループによる体験 ① １・２年生（11 名）折り紙 ② ３・４年生（９名）竹とんぼ ・最後の仕上げ ・竹とんぼ飛ばし	①１・２年生と羽ばたき鶴を折る。 ②３・４年生と紙やすりで竹とんぼの角を取り最後の仕上げをする。実際に竹とんぼを飛ばし、飛距離を競う。	[意欲・態度]
まとめ 5分	①感想発表 ②協力者に対する謝辞を述べる	①指名されれば、感想を述べる。 ②自作の凧をプレゼントする。	[思考・判断]

13．評価の観点
①関心・意欲・態度
　自らが住んでいる地域の伝統・文化について関心を持って研究し、意欲的に追求するとともに、それらを尊重し、小学生に意欲的に継承しようとしたか。
②思考・判断
　地域の伝統・文化を継承していく上での課題を見いだし、その方法を考察しようとしたか。
③資料活用の技能・表現
　体験を通して身につけた技能を小学生に適切に表現できたか。また、大きな声で楽しく､数え歌を唄うことができたか。
④知識・技能
　生活に関わる文化が、人とどのような関わりを持っているか、時代の流れと共に変化してきたかについて、基本的事項を理解し、知識を身につけているか。

［２］　年間指導計画（２単位）

<table>
<tr><th></th><th></th><th>テーマ</th><th>学習目標</th><th>学習活動</th></tr>
<tr><td rowspan="3">一学期</td><td>4月</td><td>ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
1　食文化</td><td>「生活」の中に息づく先人の知恵を発見することによって、日本や地域の文化を探求する学習の動機づけを行う</td><td>①味噌の原料による味の違いを体験する。
②和食の配膳、はし使い等基本的作法
③「イカナゴのくぎ煮」について学び、実際に調理することによって、地域の食文化を考察する。</td></tr>
<tr><td>5月</td><td>2　衣文化</td><td>日本の美意識について理解し、体験を通して学ぶことにより、日本の文化の本質を理解させる。</td><td>①着物の歴史と着付け体験
②日本舞踊体験</td></tr>
<tr><td>6月</td><td rowspan="3">3　地場産業</td><td rowspan="3">淡路の伝統工芸を、体験や地域教材等の活用を通し学び、地域の文化的価値を見直し、伝統文化の継承と創造に寄与する態度を育む。
（地域の中で、地域の産業を考える）</td><td rowspan="3">①地域産業として「ふきもどし」「淡路瓦」を取り上げ、それぞれの歴史と現状について理解する。
②地域産業活性化について、新しい活動案を提案するプランニング
③プランの発表会</td></tr>
<tr><td>7月</td></tr>
<tr><td>夏季休業</td><td>8月</td></tr>
<tr><td rowspan="6">二学期</td><td>9月</td><td>4　生活文化</td><td>地域の独特の生活文化について気づかせる。
お手玉・竹とんぼ・凧・折り紙等の古くからの遊びを実習を通して学び、また、近隣の小学生等との交流を通じて、文化の継承者としての自覚を養う。</td><td>①地域の生活文化
②お手玉・竹とんぼ・凧・折り紙等の実習
③小学生との交流会</td></tr>
<tr><td>10月</td><td rowspan="2">5　伝統文化</td><td rowspan="2">日本の伝統的な芸術・芸能・芸道を体験を通して学ぶことにより、その文化的価値と意義を理解するとともに、伝統文化を継承・発展させる態度を養う。</td><td rowspan="2">①華道・茶道の体験
②書道（毛筆の年賀状作成）
③上記の芸道の歴史と現状を学ぶとともに、その芸術性や日本人が培ってきた美意識や人生観について考察する。</td></tr>
<tr><td>11月</td></tr>
<tr><td></td><td>6　世界の中の日本</td><td>現代日本文化を多面的な視点から学ぶ。</td><td>①手塚マンガとディズニーマンガの比較
②Let's Try in English</td></tr>
<tr><td>12月</td><td rowspan="2">7　発展学習</td><td rowspan="2">伝統・文化を学習した内容を、積極的に発信し、交流しようとする態度を身につける。</td><td rowspan="2">①各自がテーマを決め、調査学習を行う。
②レポートを作成する。</td></tr>
<tr><td>三学期</td><td>1月</td></tr>
</table>

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ１

（１）生徒の感想（４月１８日授業）より

①　３年女子

感想：昨日の話を聞いて日本の料理には、意外と歴史があさかったのでとてもびっくりしました。京野菜や日本食などは他の国から来たもので元々日本で生まれたものじゃないと知ってびっくりしました。でも、日本は外国の食文化を上手に取り入れて独自の文化をきずいてきた歴史はとてもすばらしいと思います。

②　３年男子

感想：きのうは、とても日本の昔から今日までの食の文化がわかりました。最初に日本にデザートとして、わたってきたのがみかんだなんてとても、しらなかったし、なんかすごいと思いました。はしが、大工が木がもったいないから、切りはしからはしをつくったなんて、大工のはたらうがすごいと思いました。この授業でとても勉強になっていきそうでとてもわくわくしています。

③　３年女子

感想：今まで知らなかった日本食の歴史を学ぶことにより、今まで以上に日本食に興味を持つことが出来た。もっと調べて深く知りたいと思った。これからも進化し続ける日本料理に親しみ、自分もその進化を手伝う職業に就きたい。

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ２

（２）生徒のレポートより

①　３年女子　　テーマ：醤油

1　テーマ設定の理由

私は料理を作ったり、食の歴史を調べることが好きです。だから、日本で昔から使われている調味料である醤油について、歴史、醤油を使った料理、他国の調味料と比較するなどをして、醤油の知識、醤油と日本の文化の関連性を考え、知識を深めたいと思い、テーマを設定しました。

調味料を比較する授業

2　歴史

◇味噌から醤油ができた

13世紀ごろ、中国の金山寺で作っていた金山寺味噌の製法を、紀州（和歌山県）の開祖が伝え、日本でも金山寺味噌作りが広まった。

この味噌の溜（たまり）を調味料として使うとおいしいことを発見したことから、液体の醤油作りが始まった。

◇「しょうゆ」という言葉は15世紀ごろから現れる

1470年頃成立の古辞書に、「醤油」「シヤウユ」と読み仮名が振られているのが文献上の初出である。

◇日本国外への輸出

1647年、オランダ東インド会社によって輸出が開始される。

国外の文献にも醤油についての記述があり、一定の評価を受けていたことがうかがいしれる。

また、ルイ14世の宮廷料理でもかくし味として使用されていたと伝えられている。

◇江戸時代の醤油

江戸時代の初期までは、日本の醤油の主流はたまり醤油だった。しかし、たま醤油は製造開始から出荷まで3年かかり、生産量が需要においつかなかった。

◇醤油税

明治以降、醤油が生活必需品であることに目をつけた政府によって、明治から大正にかけて醤油税が導入されていた。

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ３

（２）生徒のレポートより

②　３年男子（テーマ：茶道）

1　テーマ設定の理由

僕は、抹茶はにがいだけで美味しいと思ったことがありません。和菓子も好きではありません。

皆がなぜ、茶が好きなのか。どこが好きなのか。和菓子のどこが好きなのか。それを調べるために、このテーマを選択しました。

和菓子実習風景

③　３年男子（テーマ：凧）

5　まとめ・感想

僕はこの日本の文化の授業を通して、小さい子供が古いおもちゃで遊ばなくなったのではなく、大人が古いおもちゃを子供に与えなくなったのだと思いました。なぜなら、この前の小学生との交流でみんな折り紙や竹とんぼに興味を持って遊んでいたからです。だから僕は大人になったら子どもたちに昔の遊びをしっかりと伝えたいと思います。

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ４

（３）小学校より　　①　学級通信より

たいへんお世話になりました。休み時間にお手玉をしたいというので
学校にあるものをおしてやっています。高校生のお兄さんお姉さんと交流できてうれしかったようです。
ありがとうございました。
（大

志知高校生と日本の文化で交流

お手玉であそんでむずかしかったです。一番むずかしかったのが、おさらにのせるとこです。かんたんやったのは、ぜんぶなげてピンクのお手玉だけとるとこです。「れい」のしかたがむずかしそうだなと思っていたけど、やってみたらかんたんやと思いました。竹とんぼをもってきてくれたとき、もうつかえると思っていたけど、茶色いざらざらの紙がでてきて「なにするの。」と思いました。お手玉であそんでいたら、あずきが出てきたので何が入っているのかわかりました。お手玉の中に入っているのは、すずとあずきだと思っていたのに、昔は「こはぜ」とあずきだったと聞いてびっくりしました。いつも高校生が通っているときは話せないし、今日いったときこわくないかなと思っていました。でも、みんなやさしかったです。　（はるか）

「おひと」と言ってお手玉をしたのが楽しかったです。わたしは、そんな遊びをしたことがありません。最後に「おさら」と言うのがとてもむずかしかったです。竹とんぼは、いままでよりも美しくとばせたので自分でもびっくりしました。「れい」のし方は、お姉さんが教えてくれました。あまりたたみの上ですることがないので、きちんとした「れい」を教えてもらいました。ひざの上に手をおいて、15このところですわります。「れい」も大切なことがいっぱいあるのを知りました。昔の人は、物をすてることをしないで何かに使っていたそうです。今日のお手玉も先生の着ていた着物と聞いてびっくりしました。わたしも、着物や物をすてるのはもったいないと思いました。昔の遊びを少しでも、多くの人に知ってもらいたいと思いました。今日は、とてもたのしかったです。　（しずか）

ぼくは、志知高校に行って日本の文化を学んできました。お手玉をがんばってやりました。お手玉を全部上になげて親玉だけとるのがいがいとかんたんにできました。竹とんぼをとばして1位になれたのがうれしかったです。高校生のお兄さんたちに竹とんぼのとばすコツやお手玉のやり方をいっぱい教えてもらいました。

（りょうじ）

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ５

（３）小学校より　　②校長室だより

三志小 校長室 だより
バックアップ kakurai 2

BACKUP鶴来2

③同じ日の午後　志知高校に 1.2.3.4 年生が招かれ、昔から伝わる日本の遊び文化を高校生に教えてもらいました。

高三生の「日本文化」選択者 17 名は 4 月から 10 月まで計 8 回の学習を経て今回の学習に臨みました。①着付け体験 ②礼のしかた　③お手玉遊び　④その他の遊び　⑤お手玉製作　⑥竹とんぼ製作 ⑦凧製作　⑧折り紙製作　夏季休業中や放課後も製作や練習に時間を費やしたそうです。

私たち大人も日本の文化を再度、考える時が来ていると高校生に教えられました。

（４）志知高校長室だより「こころざし」より

こころざし

県立志知高等学校　校長室だより　第７号

平成１９年６月１日（金）

ゆかたを着ました！～新しい科目「日本の文化」～

５月３０日（水）５、６限の「日本の文化」の授業で、日本舞踊の先生である小笠原伊佐子さんを講師に迎え、着付け体験をしました。３年生の１７人が選択していて、これまで伝統玩具の吹き戻しづくり、食文化の学習等をしてきました。来週は地場産業の瓦で表札づくり、翌週はまた小笠原先生をお招きして、日本舞踊や礼法の授業をします。今後も茶道や華道等、専門家を講師に招いての講義と体験的な学習とを計画しています。

３０日の授業では美容師を志す男子生徒が全員の着付けを手伝って、みんなをさすがと感心させました。終わりの挨拶では先生の「畳についた両手で鼻の形を作って、そこに自分の鼻を入れるつもりで」という言葉で、おじぎの姿がぴたっと美しく決まったそうです。魔法の言葉のようだったと担当教員から聞きました。

この授業は、国際交流が進む中で、日本人、特に若い人たちが、あまりにも自国の文化について知らないのではないかという反省に立って、新しく「学校設定科目」として置くことができるようになったものです。外国の人が伝統音楽を演奏したり、伝統舞踊を踊ったりして、その国の文化を紹介してくれたときに、返礼の歌や踊りができるよう、また日本や自分の住んでいる地域について質問されたときに、答えられるよう、この授業をきっかけに、より理解を深めてもらいたいと思います。

こころざし

県立志知高等学校 校長室だより 第１８号

平成１９年１０月３０日（火）

「日本の文化」公開授業

3 年生選択科目にある「日本の文化」は、今年から県下の 13 校で実施されている新しい科目です。取り組みを他校にも見てもらうために、10 月 25 日に公開授業を実施しました。

今回のテーマは「遊びの伝承」で、三原志知小学校の１～４年生 20 人を招待して、自分たちがこれまで習ってきたことを教えました。礼の仕方からスタート。前に扇子を置いて「結界」を作るなんて難しいことから始まりましたが、小さな子どもが正座してきちんと礼をしているのは、かわいくていいものでした。「お兄さん・お姉さん」は前に座って 1 対 1 で挨拶を交わしました。

次はお手玉（オジャミ）で、夏に習ったばかりの淡路独特の「ななつ」という遊び方を、小学生に教えました。お手玉は授業中に、古い着物から手作りしたそうです。7 つものお手玉を遣うのは難しそうでしたが、数え歌を歌いながら楽しそうに遊んでいました。

後半は１、2 年生が折り紙、2、3 年生が竹とんぼと分かれて、伝統的な遊びを伝承しようと生徒たちもそれぞれの班で、時間いっぱい頑張っていました。「お兄さん」たちがいつもよりずっと優しい顔つきだったのが、印象的でした。

最後に小学生が感想を発表しました。発言を求められると一斉に手が挙がって、「お手玉が楽しかった。おばあちゃんに作ってもらって、家でもしたい」とか「お兄ちゃんが優しかった」とか、立派に発言ができたのには、感心しました。

本校生も竹とんぼを仕上げの前の段階まで作ったり、凧を作ったり、前日も遅くまで残ったそうです。何人かは浴衣姿でパフォーマンス度満点。いい公開授業となりました。ごくろうさまでした。

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ７　　校長より年賀状への返事

日本の文化講演者の皆様へ

すばらしい賀状をありがとうございました。
テレビ新聞で　新聞紙上に掲載されたことも
ちゃんと見ております。　正にすばらしい渋い講演の物語
です。
お正月に賀状の文様をみることのない　日本の伝統文
化です。ふるさとの素晴らしい文化に一人一人賀状
で優雅な文化を伝えていく事　こと思います。
遠い次の世代に伝えていく義務を　ここにいる皆
様方ならなすべき務めであります。
この感謝の皆様へ　日本の文化を講演　ありがと
うございます。
ますます　皆様の幸福を願っていると思います。　ますます人々に日
ならず世の為　人の為　の時間を　ますます願っていると思
います。　興味深く　渋い　ふるさとの　日本文
化の語り部　あってください。
日本人は日本文化を大切にしなければ　いつの間にか
日本文化は消えてしまうでしょう。
国際社会の中で　世界の文化を語ってください　誇り
日本人として　おかれていることを　誇りに思います。
私達は　今　一人一人が　世界　一つ　ずつの
を　観光　します。
以上

[illegible]

志知高「日本の文化」　資料Ｎｏ８

私は、志知高校に入学して、さまざまな活動に取り組んできました。

ＳＳＳ（総合的な学習の時間）では、点字の学習をして、特別養護老人ホームに点訳したパンフレットや、般若心経をプレゼントしました。３年になってからは、インターンシップで保育園に行って、子ども達と一緒に楽しく遊び、保育士になりたいという、将来の夢を、より強く、志すようになりました。

様々な活動の中で、私が特に力を入れて取り組んできたのが、３年になって選択した授業、「日本の文化」です。

この授業は、今年から、兵庫県が独自に取り入れたもので、「日本の伝統」や「地域の文化」に親しみと誇りを持つことを目的とした授業と言うことでした。私が「日本の文化」を選択した理由は、１人で浴衣の着付けが出来るようになりたかったのと、華道や茶道などの実技が多く、楽しそうだったからです。実際に授業が始まり、たくさんの実技をして、いろいろなことを学びました。

まず、一番楽しみにしていた着付けの授業です。一本の帯で、リボンの形や、ちょうの形などの、さまざまな結び方が変わり、まるで魔法のようでおもしろかったです。着付けをした後、先生に礼の作法を教えていただきました。礼の時に使う扇子は、自分がへりくだり、目上の人に対して、失礼のないようにと配慮する日本伝統の謙譲の心の表現であることを学びました。そして、「何かを教えてくれる人がいると言うことは、とても幸せなことです。」と話されていた先生の心がとても美しく感じました。

次に、小学生に昔の伝統的な遊びを伝えるために、昔ながらのおもちゃを作りました。竹をナイフで削り、竹とんぼを作り、竹ひごを組み合わせて、凧を作りました。ナイフで竹を削ることなどしたことがない女子の分を、男の子達が遅くまで残って仕上げてくれました。中には、家で竹とんぼが良く飛ぶように工夫をしてくれ、小学生の人数分を一人で作って来てくれた男子もいました。遅くまで居残りをするのは、大変だったけど、みんなで楽しく、わいわいと作ったので、いい思い出になり、みんなで１つのものを作り上げていくことの楽しさを学びました。

その他にも、古くなった着物をほどき、１つ１つ、手作りでお手玉を作りました。４枚の布を縫い合わせて、１つのお手玉にしていくのは大変でしたが、小学生が「楽しんで遊んでくれたらいいなあ」と思いながら、一生懸命作りました。出来上がったおもちゃは、上手に出来たものばかりではありませんでした。お手玉などは、授業中に破れて、中の小豆が飛び出すもの続出でした。しかし、１つ１つ味があり、手作りの暖かさが感じられるものに仕上がりました。今は、おもちゃと言えば、市販されているものを与えられるばかりですが、昔の人は、自分たちで何でも作り、創造する楽しさ、おもしろみを感じていたと思うと、今は、与えられるばかりで、損をしているんじゃないかと思いました。

このような授業を通して、私は、「日本の文化」とは、「心」にあるのだと思いました。それは、日本人が昔から大事にしてきた「もったいない」という心です。同じ帯でも、結び方を変えることで、長い間、使うことが出来ます。着ることの出来なくなった浴衣でお手玉を作ることで、自分の子どもに受け継いで、布を無駄にしません。

お手玉の音を聞いてください。（お手玉をならす）この音は、古くなった足袋の金具・こはぜを捨てないで利用して、音を楽しんだそうです。このように、物を大事にして、ゴミにせず、再利用することは、簡単そうですが、意外と難しく、物を大切に扱ってきた日本人の心はすばらしいと思います。

２学期後半からは、華道や茶道、箏などの実技に挑戦します。とても楽しみにしています。日本人が大切にしてきた心を更に学び、有意義な３年間のまとめにしたいと考えています。